



研究用試薬

ヒストファイブ

第一抗体

抗ラムダ(λ)モノクローナル抗体(HP6054)

(動物種: マウス)

包装: 50 テスト (6mL)

Code: 413901

製造販売元

株式会社ニチレイバイオサイエンス

〒104-8402

東京都中央区築地6-19-20

TEL. 03(3248)2208 FAX. 03(3248)2243

■ **特異性および抗原分布:** ヒト免疫グロブリンのL鎖は、カッパ(κ)鎖とラムダ(λ)鎖の2種類に分類される。分子量 25kDa の遊離型および結合型のL鎖 λ と特異的に反応する。L鎖 κ とは反応しない。正常および腫瘍組織の形質細胞の細胞質および結合組織や血管内にある細胞外免疫グロブリン、B細胞(Bリンパ球)の細胞膜と反応する。ただし、パラフィン包埋切片では、形質細胞等の細胞質の反応性と比較し、B細胞(Bリンパ球)の細胞膜の反応性は低いため、腫瘍等の指標に用いる場合は十分に注意をする必要がある。

■ **クローン名:** HP6054

■ **抗体のサブクラス:** IgG2a

■ **免疫原:** ポリアミノスチレンマイクロビーズに共有結合した、精製ヒト IgG(免疫グロブリン)ミエローマタンパク

■ **製法:** ハイブリドーマの培養上清より得ている。

1. 内容

第一抗体・・・抗ラムダ(λ)モノクローナル抗体(HP6054)(動物種: マウス)。

液状。

ウシ血清アルブミン(BSA)と、0.1%アジ化ナトリウムを含むリン酸緩衝生理食塩水(PBS)中にて、即時使用可能な抗体濃度に希釈済み。

1バイアル中に6mLを含む。

2. 使用目的

組織・細胞中のヒトL鎖ラムダ(λ)の染色。

*3. 使用方法

パラフィン包埋切片の免疫組織化学および免疫細胞化学染色に使用できる第一抗体である。

パラフィン包埋切片の場合、前処理(抗原賦活化)としてヒストファイブ プロテアーゼ溶液(Code: 415231)を用いて5-15分間(25°C)の酵素処理が必要である。

スライド上の組織切片が完全に覆われるように第一抗体を2滴(100 μ L)滴下し、常温(15-25°C)で30分~1時間インキュベートする。*

この反応時間は、ヒストファイブ シンプルステインMAX-PO(M)を使用する場合の目安であり、他のキットを使用する場合は、研究者自身が至適反応時間を調べる必要がある。

4. 貯法

2-8°C保存。

5. 使用上又は取扱上の注意

ヒト由来の検体は、取扱者に感染をひき起こす危険性がある。従って、適切な取扱および廃棄法を用いるとともに、この免疫組織(細胞)化学染色法を施行するに際し、関連技術および操作法に充分習熟しておかなければならない。

6. 主要文献

(1) J. TOTH, et al: Pathology Oncology Research 3:219-223,1997

(2) G. Toledo, et al: Rev Esp Patol 34(1):65-68,2001

(3) Gülen DOĞUSOY, et al: Turkish Journal of Gastroenterology 12(2):130-135,2001

(4) Seok H. Kim., et al: Journal of Molecular Histology 35:409-416,2004

(5) D. Talaulikar, et al: Journal of Histochemistry & Cytochemistry 56(10):893-900,2008

(6) F. Tokatli, et al: Hematol Oncol Stem Cell Ther 1(4):241-245,2008

■ 研究用としてのみ使用すること。